

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22251010

研究課題名(和文) 中国における都市の生成 良渚遺跡群の学際的総合研究

研究課題名(英文) Urban Genesis in China : Multidisciplinary Study of Liangzhu Site Groups

研究代表者

中村 慎一 (NAKAMURA, Shinichi)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：80237403

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,500,000円

研究成果の概要(和文)：良渚囲壁は東西南北の4面にそれぞれ2門が開く構造であることが判明した。内外両側に環濠を配しており、いわゆる水城の様相を呈している。囲壁内部のほぼ中央に位置する莫角山土台の基底部に積まれた「土囊」の年代測定から、莫角山の建造が紀元前2900年前後にまでさかのぼることが確認された。遺跡群西方では崗公嶺地点を初め何か所かでダム状遺構が検出されており、これまた紀元前3000年頃に位置づけられる。塘山土壘とともに複雑な水利施設群を構成していたことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Liangzhu enclosure is rectangular in shape and each side has two gates. The wall is accompanied by inner and outer moats, so it may have seemed like a 'floating city'. Mojiaoshan platform, which is located at the center of the enclosure, is dated back to around 2900BC from the carbon-14 dating of the sandbags of vegetable matter piled near the bottom of the platform. To the west of Liangzhu site groups, some dam-like earthen structures have been found such as Gangongling site and they are also dated back to 3000BC. It is clear they consisted complicated hydraulic facilities together with Tnagshan rampart.

研究分野：中国考古学

キーワード：考古学 先史学 中国 良渚文化 良渚遺跡群 学際研究 文明起源 都市形成

1. 研究開始当初の背景

良渚遺跡群は、1980年代後半の反山、瑶山の両墓地遺跡における大量の玉器・漆器・象牙器などの発見以後、学界からとりわけ大きな注目を集めるようになった。その後、面積約30万㎡、高さ10mの規模を誇る莫角山基壇、それぞれ数万㎡の面積を有する5つの基壇が整然と並ぶ東苕溪北岸の基壇群、東西5kmに伸びる塘山土壘などの重要遺跡が陸続と発見され、良渚遺跡群こそが良渚文化の中心地であることが次第に明らかとなった。

研究代表者の中村は、これまでに良渚文化を対象として、玉器、石器、木器、集落など多角的な研究を展開してきた。そこで終始一貫して主張してきたことは、良渚文化期にはすでに社会の階層化、手工業生産の専門化、農業の集約化が高度に進展している点から見て、その政治組織は国家段階に到達しており、良渚遺跡群は都市と認定しうるのではないかということであった。

そうした見通しを大きく前進させる発見が2006年にあった。良渚遺跡群の中心遺跡、莫角山基壇を囲む面積290ヘクタール(=2.9km²)の巨大土築囲壁の発見である。その構造を明らかにすることで良渚文化研究にブレークスルーをもたらすことが可能になると考え研究に着手した。

2. 研究の目的

良渚遺跡群の形成から廃絶にいたる各時期の暦年代の確定、古環境・古景観の復元、遺跡群内の各遺跡の機能推定(宮殿・住居・墓地・祭祀・生産等)、遺跡間関係、特に囲壁集落と外部集落との関係の復元、等々の未解決の諸課題の解決を目指すとともに、それを突破口として、良渚文化研究全般の刷新を図ることを目的とした。

その具体的研究項目としては、土器編年の確立と暦年代の確定、古環境・古景観の復元、生業基盤の解明(特に水田址探索)、手工業生産技術(特に木漆器)の復元、を立てた。

3. 研究の方法

「研究目的」として掲げる4項目を達成するため、日本を代表する各分野の専門家を結集するとともに、中国の研究機関とも連携し、5年にわたり学際的な総合調査を実施した。研究の主体となる海外調査は、毎年度2~3回に分け、それぞれ1~3週間実施した。各年度の研究成果は、学会発表、図書・論文執筆、新聞記者発表等の手段を通じて逐次発信した。最終年度の平成26年度には研究成果最終報告会を兼ねた国際シンポジウムを開催し、研究成果を広く社会に還元した。また、最終年度末には研究成果報告書『良渚遺跡群の研究』を刊行した。

4. 研究成果

5年間の研究成果は、研究成果報告会報告、学会発表、論文、図書として国内外において随時発表してきた。全体の集大成としては、平成27年3月に報告書『良渚遺跡群の研究』(総239頁、論文・報告計18本、金沢大学国際文化資源学研究センター刊)を刊行した。詳細はその報告書に譲ることとし、ここでは研究成果のうち主要なもののみを列挙する。

(1)良渚囲壁は東西南北の4面にそれぞれ2門が開く構造であることが判明した。内外両側に環濠を配しており、いわゆる水城の様相を呈している。

(2)囲壁積み土の基底部には周辺の平野部の地山として広範に分布する水成堆積物を積み、その上には周辺の黄土丘の土を運搬してきて盛った可能性が高い。

(3)積み土の断面では土色の違いから一回の盛り土の「単位」が認められる場合があるが、これは丸木船か筏での運搬量を示している可能性が高い。

(4)積み土基底部に敷かれる石塊にも数十個一組の「単位」が検出可能で、同じく舟運による運搬量と考えられる。

(5)囲壁内には大小の水路が縦横に走って

おり、そのうちの1本は莫角山の西縁に達していた。

(6) 莫角山土台の基底部に積まれた「土囊」の年代測定から、莫角山の建造が前2900年前後にまでさかのぼることが確認された。

(7) 莫角山東縁トレンチで確認された炭化物は推定埋蔵量が10~15トンと膨大で、米蔵が焼失したものと想定できる。

(8) 炭化物には形態的な変異が大きく、複数の生産地から貢納された可能性が示唆される。

(9) 塘山土壘は部分的に二重の土壘からなっており、単なる「防洪堤」ではなく、水路の機能を併せ持っていたことが明らかである。

(10) 遺跡群西方では崗公嶺地点を初め何か所かでダム状遺構が検出されており、前3000年頃に位置づけられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

1. Qin, Xiaoli, "Relationship between South China and Vietnam: Technology, Function, and Distribution of Jade Stone Ornaments" 『金沢大学考古学紀要』36、pp.155-165、2015、査読有

2. 鈴木三男ほか6名「縄文時代のウルシとその起源」『国立歴史民俗博物館研究報告』187、pp.49-71、2014、査読有

3. 小林和貴・鈴木三男「出土編組品素材の同定方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』187、pp.457-467、2014、査読有

4. 中村慎一「良渚遺址発現的意義」『考古学研究(北京大学)』9、pp.575-586、2012、査読有

5. Nakamura, Shin-ichi, "The Origin of Rice Cultivation in the Lower Yangtze Region, China." *The Journal of Archaeological and Anthropological Sciences*, pp.107-113, 2010, 査読有

〔学会発表〕(計12件)

1. 中村慎一「多角的生業戦略から稲作專業へ-中国浙江省の調査から-」日本文化財科学会第31回大会特別セッション、奈良教育大学(奈良県・奈良市)、2014年7月5日(招待講演)

2. 小柳美樹「中国大陸における農耕社会の成立」日本文化財科学会第31回大会特別セッション、奈良教育大学(奈良県・奈良市)、2014年7月5日(招待講演)

3. 金原正明・田崎博之・岡田憲一・柳原麻子・中村慎一ほか4名「堆積物の有機残存物と炭化物の基礎的研究」日本文化財科学会第31回大会口頭発表、奈良教育大学(奈良県・奈良市)、2014年7月5日

4. 宇田津徹朗・中村俊夫ほか4名「プラント・オパール中の炭素による生産遺構の年代決定法に関する研究()」日本文化財科学会第30回大会口頭発表、弘前大学(青森県・弘前市)、2013年7月6日

5. 金原正明・中村慎一ほか3名「中国長江下流域の稲作文明の植物遺体群」日本植生史学会第27回大会口頭発表、アオーレ長岡(新潟県・長岡市)、2012年11月24日

6. 小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男「出土編組製品における素材植物の同定方法」日本植生史学会第27回大会口頭発表、新潟県立歴史博物館(新潟県・長岡市)、2012年11月24日

7. 金原正明・中村慎一「中国長江下流域の稲作文明の環境」日本文化財科学会第29回大会口頭発表、京都大学(京都府・京都市)2012年6月23日

8. Koyanagi, Yoshiki, "Jade Objects of the Chinese Early Dynasty from Yangzi River Culture", The 5th World Conference of the Society for East Asian Archaeology, 西南学院大学(福岡県・福岡市)、2012年6月10日

9. 中村慎一「中国における王墓のはじまり」第5回アジア考古学四学会合同講演会、明治大学(東京都・千代田区)、2012年1月22日

10. Nakamura, Shin-ichi, "Urban Genesis at the Waterside : Newly Discovered Walled/Moated Settlement at Liangzhu" Neomap General Meeting, 総合地球環境学研究所(京都府・京都市)2011年10月9日

11. 宇田津徹朗・中村俊夫ほか4名「プラント・オパール中の炭素による生産遺構の年代決定法に関する研究()」日本文化財科学会第28回大会口頭発表、筑波大学(茨城県・つくば市)、2011年6月11日

12. 中村俊夫・宇田津徹朗ほか4名「プラント・オパール中の炭素による生産遺構の年代決定法に関する研究()」日本文化財科学会第28回大会口頭発表、筑波大学(茨城県・つくば市)、2011年6月11日

〔図書〕(計10件)

1. 中村慎一(編著)『良渚遺跡群の研究』金沢大学国際文化資源学研究所センター、総239ページ、2015

2. 中村慎一「中国の王墓」アジア考古学四学会(編)『アジアの王墓』、高志書院、pp.43-60、2014

3. 中村慎一「イネ利用のはじまりから稲作文明の形成へ」中島経夫・楨林啓介(編著)『水辺エコトーンにおける魚と人』、ふくろう出版、pp.1-5、2014
4. 小柳美樹「中国新石器時代における稲作の展開」中島経夫・楨林啓介(編著)『水辺エコトーンにおける魚と人』、ふくろう出版、pp.6-12、2014
5. 中村慎一「良渚囲壁集落と良渚遺跡群」飯島武次(編)『中華文明の考古学』、同成社、pp.2-11、2014
6. 小柳美樹「大石鈔考」飯島武次(編)『中華文明の考古学』、同成社、pp.21-30、2014
7. 宇田津徹朗「イネの細胞化石から水田稲作の歴史を探る」佐藤洋一郎・赤坂憲男(編)『フィールド科学の入り口 イネの歴史を探る』、玉川大学出版、pp.164-176、2013
8. 宇田津徹朗「東アジアにおける水田稲作技術の成立と発達に関する研究-その現状と課題-」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』24、pp.113-122、2013
9. 中村俊夫・宇田津徹朗ほか4名「プラント・オパール中の炭素抽出とその14C年代測定を試み」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』24、pp.123-132、2013
10. 中村慎一「湿地、水田、そして都市へ-長江下流域新石器時代の景観変遷」内山純蔵ほか(編著)『景観の大変容-新石器化と現代化』、昭和堂、pp.71-88、2011

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 慎一(NAKAMURA SHINICHI)
金沢大学・歴史言語文化学系・教授
研究者番号：80237403

(2) 研究分担者

宇田津 徹朗(UDATSU TETSURO)
宮崎大学・農学部・教授
研究者番号：00253807

金原 正明(KANEHARA MASAOKI)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号：10335466

中村 俊夫(NAKAMURA TOSHIO)
名古屋大学・年代測定総合研究センター・教授
研究者番号：10135387

鈴木 三男(SUZUKI MITSUO)
東北大学・学術資源研究公開センター・名誉教授
研究者番号：80111483

渡部 展也(WATANABE NOBUYA)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：10365497

小柳 美樹(KOYANAGI YOSHIKI)
金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授
研究者番号：40436671

秦 小麗(QIN XIAOLI)
金沢大学・国際文化資源学研究センター・特任准教授

(3) 連携研究者

()

研究者番号：